

2020年3月期第2四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q: T&M事業の第2四半期の受注、売上高、及び営業利益についてどのように評価しているか。特に受注の第1四半期比減についてコメントして欲しい。

A: 5Gの開発需要を軸にほぼ計画通りの第2四半期でした。受注については確かに第1四半期に比べ23億円減少しましたが、これは第1四半期に大口受注があったためです。この要因を除くと、5Gが立上った昨年度第2四半期以降、四半期受注は180億円前後のレベルで推移しています。

Q: 今後の5G測定器の需要について開発用、製造用、フィールド用の各々で説明ください。

A: 現在は3GPP/Rel.15（超高速通信）対応のチップセット及び端末に関連する開発用測定需要が主です。今後は規格適合性試験に関する需要が立上ります。加えてRel.16向け等、規格化に応じて開発用測定需要が継続すると考えます。端末の製造用測定需要の本格化は2020年以降と考えています。フィールド用の測定需要は既に立上りつつありますが、本格化は各国の5Gインフラの構築時期によります。

Q: ミリ波の測定需要をどう見ているか？

A: 既にミリ波を使った5Gの開発用測定需要はありますが、技術的課題も多く、実用化にはまだ時間を要すると考えています。今後もお客様と課題解決に向けて取り組み、最適な測定ソリューションを提供していきます。

Q: 2020年度以降のT&M事業の市場戦略についてその方向性をお聞かせ下さい。

A: 3GPP/Rel.16が実用化されると5G市場はスマートフォンだけではなく、自動運転やローカル5Gなどの新規ビジネスが拡大すると想定されます。これに関連する測定需要をどのように獲得していくかが焦点となります。

Q: 台風19号による工場浸水について説明して欲しい。

A: 「台風19号」による河川の氾濫により、福島県郡山市に所在する連結子会社の東北アンリツ株式会社 第一工場が被災いたしました。当社は、同工場における生産体制の復旧に取組み、10月28日（月）より出荷を再開しました。なお、被災した資産の復旧にかかる費用については現在精査中です。